

# 岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 21  
2018. 01

TOPICS

## 1 第1回ジャパンSDGsアワード報告会で榎野学長が講演

第1回ジャパンSDGsアワード報告会が1月20日、東京の富国生命ビルで開催されました。ジャパンSDGsアワードは、SDGs達成に資する優れた取り組みを行っている企業・団体等を、SDGs推進本部（本部長：内閣総理大臣）が選定し、表彰するものです。本学は特筆すべき功績があったとして特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を受賞しました。報告会には、本学をはじめとする受賞12団体が一堂に揃い、各団体の取り組みについて報告。

本学の榎野博史学長は、「共鳴しあうパートナーシップーSDGsに貢献する岡山大学の取り組み」と題して講演。岡山の地に受け継がれている「社会課題解決の遺伝子」や、岡山でのESDの実績を報告したほか、4月の学長就任以降、SDGsへの取り組みを加速していることについて紹介しました。最後に、アワード受賞団体が連携し、日本のSDGsモデルを世界へ発信する「SDGsアワード・エコシステム」の構築について提案し、講演を締めくくりました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7280.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7280.html)

## 文部科学省の松尾審議官が本学を視察

TOPICS

2



文部科学省の松尾泰樹審議官が12月11日、本学を視察しました。松尾審議官は津島地区で、第11回みどりの学術賞を受賞した異分野基礎科学研究所の沈建仁教授や、大学院自然科学研究科の野上保之教授の研究室を訪問。沈教授が光合成の水分解・酸素発生反応を引き起こす「光化学系II」タンパク質の構造を世界最高の解像度で明らかにした成果などを説明しました。野上教授はICT社会における情報セキュリティの研究として、最新の暗号技術などを実演して解説しました。

また、松尾審議官は留学生と日本人学生との交流スペースL-caféや、旧岡山藩主池田家の史料「池田家文庫」を展示している附属図書館にも訪れ、スタッフの説明に熱心に耳を傾けていました。このほか、世界的建築家ユニットSANAA設計によるJunko Fukutake Terraceで榎野博史学長や各理事らとの懇談会も行われました。

鹿田地区では、金澤右病院長と大学院医歯薬学総合研究科の那須保友研究科長らから、病院や医療系部局の取り組みについての説明を受け、意見交換を行いました。また、今年7月に完成披露した入院棟11階の長期入院小児患者の家族のための宿泊施設ファミリーや、総合診療棟のIVRセンターやバイオバンクなどを視察。シミュレーションエリアでは、本学が導入している人体模型の手術シミュレータの説明を受けました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7257.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7257.html)

最近の大学の取り組み

## 岡山大学広報「いちよう並木」1月号を発行



本学の活動などを紹介する広報誌「いちよう並木」の2018年1月号（Vol.88）を発行しました。

今号では、2017年10月に始まった「グローバル・ディスカバリー・プログラム」について紹介しているほか、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」と岡山大学の取り組みなどについて取り上げています。

ぜひ、ご覧ください。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7279.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7279.html)

## 有馬東京大学総長特任補佐と 青木IRデータ担当課長を招きIR/IE講演会を開催



本学は1月22日、東京大学の有馬孝尚総長特任補佐(IR担当)と東京大学総合企画部の青木志帆IRデータ担当課長を招き、IR/IE講演会を開催しました。

有馬総長特任補佐は「東京大学におけるIR活動～現状等将来像～」と題し、経済社会における構造変化やSDGs(Sustainable Development Goals)への取り組みなどを紹介。さらに、国立大学法人における経営力の強化、好循環の確立による自律的な大学経営、予算配分の透明化と組織体制、教員・研究者の戦略的配置、東京大学IRデータ室の役割と体制について、具体的な数値データを交えながら講演しました。青木IRデータ担当課長は「大学の特性を踏まえたIRデータ活動とは？ - 東京大学が統合報告書を目指す理由 -」と題して講演。教学情報、研究情報の公表

のみでなく、ステークホルダーに対してさらなる支援の拡大を訴えるため、非財務情報と財務情報に加え、経営理念・ビジョンを統合させた「統合報告書」を作成する必要性があると強調。統合報告書作成に向けたIRデータ室が果たす役割について、東京大学の実情などを交えながら講演しました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7286.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7286.html)



## 自然科学研究科の教員らが「小学生機械講座」を開催

本学大学院自然科学研究科は「小学生機械講座」を12月12日に岡山県内の玉野市立日比小学校、12月14日に総社市立神在小学校でそれぞれ開催しました。「機械の教室：機械のしくみを見てみようーリンクと歯車ー」をテーマに、同研究科機械系の教員と技術職員らが企画。子どもたちは、普段目にする身の回りの機械に使われている歯車と、動作する部品同士を連結する役割を担うリンクの不思議さや面白さを体験しました。

同講座は平成23年から毎年実施し、今年で7年目です(計14小学校で実施)。子どもたちに早いうちからメカニズムに触れてもらい、その面白さを体験することで、理科全般に興味を持ってもらうことを目的としています。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7274.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7274.html)



### PRESS RELEASE 1

## エンドサイトーシスにおける「分子ハサミ」の機構解明に前進

### ～ダイナミン-アンフィファイジン複合体による膜切断を直接可視化～

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の竹田哲也助教と竹居孝二教授、金沢大学理工研究域バイオAFM先端研究センターの安藤敏夫特任教授、名古屋大学大学院理学研究科の内橋貴之教授らの共同研究チームは、細胞が細胞外物質を細胞内に取り込む経路であるエンドサイトーシスにおいて、膜小胞形成に必要な、ダイナミン-アンフィファイジン複合体による膜切断機構を解明しました。研究チームは、高速AFMと呼ばれる特殊な顕微鏡を用い、膜切断過程におけるダイナミン-アンフィファイジン複合体の動的な構造変化を、直接可視化することに世界に先駆けて成功しました。本研究の成果は1月23日(火)日本時間午前9:01、国際科学誌「eLife」に掲載されました。本研究の成果は、エンドサイトーシスにおける膜リモデリング機構の解明だけでなく、ダイナミンやアンフィファイジンの機能異常が原因で起こる、神経や筋肉の難病の発症メカニズム解明にもつながることが期待されます。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id521.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id521.html)



### PRESS RELEASE 2

## 軟骨細胞の破裂が骨形成の場を作る！

### 骨ができる新しいメカニズムを発見

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(歯)生体材料学分野の原エミリオ助教、松本卓也教授、大阪大学の共同研究グループは、骨が形成される新しいメカニズムをマウスモデルを使って発見しました。この新しいメカニズムは二次骨化中心と呼ばれる大腿骨などの関節部分における骨化初期において認められます。研究グループはこの部位における軟骨細胞が肥大化した結果、細胞の一部が破裂し骨形成に必要なスペースができること、この破裂の際に残された細胞膜断片が骨石灰化の開始点になることを見出しました。さらにこの細胞破裂は歩くことなどによって生じる機械的刺激によって誘引されることも突き止めました。本研究成果は骨の成長に適した環境の理解や新しい骨再生材料の開発につながります。成果は1月17日 日本時間午前0時(米国時間16日午前10時)米科学雑誌「ACS Biomaterials Science & Engineering」ならびに、1月15日 日本時間午後10時(英国時間午後1時)英科学雑誌「Integrative Biology」のオンライン電子版に掲載されました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id517.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id517.html)

